

## 令和5年度 児童朝会6・7講話

令和6年3月11日【てふてふ1】  
おはようございます。

朝犬の散歩をしていましたところ、鶯の鳴き声が聞こえてきました。が、「ほーーーけっ」とまだ上手になくことができませんでした。鳥も人と同じ、練習して上手になれるようになるのですね。

早いもので、今年度最後の全校児童朝会となりました。次に集まる修了式では、6年生は卒業していますので、このメンバーで集まるのは、今日で最後になります。最後の児童朝会も良いものにしていきましょう。

さて、前回から募集しています、心がつらいときに、何を思い浮かべますかというお題で、今回もたくさんのお友だちが書いてくれました。ありがとうございます。ゲームや推しなどの回答が多くかったと思います。

先週行われた6年生の卒業をお祝いする会も、大変よかったです。1年生から5年生の在校生が心を込めてつくったメッセージを送り、思い出のアルバムを歌い、6年生がお礼として雑巾をプレゼントし、旅立ちの日を歌うと、校長先生は胸が熱くなりました。6年生のみなさん、本当にご卒業おめでとうございます。

さて、今日は6年生の卒業にちなんで「てふてふ」のお話をしようと思います。てふてふってなんでしょう。少し周りの人と聞き合ってみましょう。てふてふというのは、昔の書き方で、今は「ちょうどよ」と書きます。

ではちょうどよと、卒業がどんなつながりがあるかと言いますと、どちらも春に関係がありますよね。ちょうどよはなにで生まれますか？ そう卵から生まれます。でも卵からいきなりちょうどよにはならないですね。まず幼虫になって、つぎにさなぎになって、そしてちょうどよになります。さなぎって、どんな生き物でしょう？ じっとして動かない、青虫でもちょうどよでもない。人間にたとえると子どもと間の中学生に似ているかもしれませんね。大人でもなければ、子どもでもない。中学生は電車は大人料金がかかります。でも映画館では大人よりは安く子どもよりは高い。それが中学生です。

もちろん、人間はちょうどよではありませんから、さなぎのように中学生だからと言っても姿やかたちが変わることはありません。でも、心は変わっていきます。たとえば、身近に好きな人がでてきたりします。ときにはその人が家族よりも大切にしたいと思うかもしれません。やがて結婚して、新しい家族をつくるかもしれません。全員そうなるわけではありませんが、そういう人が多くなっていくのが、中学生です。また、自分は何者？ となやむようになる人もいるかもしれません。自分はどこから来たのだろう、どこへ行くのだろうと悩んだり、友だとの関係で悩んだりすることがあるかもしれません。こうなるのは特別なことではなく、自然な心の成長であります。これを自我のめざめと言ったり、アイデンティティーの確立と言った

りします。そして、こういう心の変化がおきやすい中学生、高校生ぐらいのことを、思春期といいます。春を思う時期なのです。

今週のお題です。「中学生になったらしてみたいことを教えてください。」

今日も最後まで聞いていただきありがとうございました。